

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」



大阪市立喜連中学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では部活動の活性化と生徒の自主的活動を中心とした規範意識の向上を目指し、学校を中心として保護者・地域・PTAの協力のもと取り組みを進めてきている。その結果、現在では安定した学校活動が行われている。今後はこの状態をもとにして表面に表れにくい「いじめ」や遅刻・不登校の問題に力を入れていきたい。また、学力面においても、従来より取り組んでいる学力向上対策をさらに推進し、たしかな学力の育成を目指さなければならないが、「**人間尊重の精神を基盤にした教育**」を見失わないように最大の努力をしなければならない。これらの課題をクリアするためには、家庭、地域さらには小学校や関係諸機関とのより密接な連携・協力が不可欠である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の生徒アンケートにおける「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
(R6年度…1年87%、2年87%、3年86%)
- ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R6年度…85%)
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R6年度…1年98%、2年97%、3年99%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。
(R6年度…1年94%、2年97%、3年96%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。
(R6年度…1年87%、2年85%、3年85%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(R6年度…96%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。(R6年度…1年33%、2年44%、3年は39%)
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。(R6年度…1年45%、2年51%、3年55%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。
(R6年度…1年96%、2年93%、3年90%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。(R6年度…1年88%、2年91%、3年95%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。**〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕**
- ・学習者用端末を活用した学習、生徒アンケート等を実施する。
- ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】について

- ◎ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、1年86%、2年85%、3年86%であった。
- ◎ 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は92%であった。
- △ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率は16.34%とほぼ横ばい状態であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年99%、2年95%、3年98%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年94%、2年93%、3年97%であった。
- 年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年86%、2年87%、3年85%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、1年97%、2年95%、3年97%であった。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】について

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、2年32%とわずかに目標に達しなかったが、1年35%、3年43%であった。
- ◎ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比は、同一母集団において経年的に比較し、3年では国語で+2ポイント、数学では+4ポイントとなり向上した。
- △ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は、1年59%、2年48%、3年46%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年93%、2年91%、3年94%であった。
- 年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年94%、2年91%、3年91%であった。

【学びを支える教育環境の充実】について

- ◎ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は55.0%と目標値達成した。心の天気の入力の必須化や不登校生徒への学習保障も含め、活用率UPをはかるために一人一台端末を持ち帰らせた。また学活等の連絡事項を端末で実施したり、端末で家庭学習の課題を配布・回収するなど、取り組みを活性化させた。
 - Google Classroom を使った課題の自動採点や、デジタルドリルを活用した朝学習を実施した。また生徒アンケート等はMicrosoft Formsを活用し、データ集計の簡便化をはかった。
- 教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、全教職員の88%であった。

大阪市立喜連中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6年度…1年87%、2年87%、3年86%) ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R6年度…85%) ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R6年度…1年98%、2年97%、3年99%) ・年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R6年度…1年94%、2年97%、3年96%) ・年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。(R6年度…1年87%、2年85%、3年85%) ・年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(R6年度…96%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校向上支援チーム事業を通じて、落ち着いたある授業支援等を行う。 ・様々な体験活動や講演会を実施し、生徒の多方面への興味や関心を高めることで社会性を育成する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期にいじめアンケート調査を実施し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に向けて教職員の連携を密にして取り組む。 ・年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。(R6年度…85%) 	

<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を推進する。 ・「時間を守り規則正しい生活を心がける」「学校のルールやマナーを守る」の2点について、家庭と連携しながら全教職員で指導する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。 (R6年度…1年94%、2年88%、3年88%) ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 (R6年度…1年98%、2年97%、3年99%) ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的な生活習慣が身につくよう指導している」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R6年度…92%) <p>*上記の事柄を全校集会、学年集会、様々な行事において指導・推進する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識や仲間意識が向上する学校行事を実施する。 ・鑑賞行事を通して、TPOに応じた社会的態度を育成する。 ・生徒一人ひとりが、互いの人権を尊重し合える教育を推進する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。 ・年度末の生徒アンケートにおける「相談できる友だちがいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。 ・様々な分野からゲストティーチャーを招き、人権感覚を磨く取り組みを実施する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>△取組内容①については、各学年で落ち着いて授業が受けられる体制が定着している。各学期に一人一台端末を利用し、いじめアンケート調査を実施し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に努めた。年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている」の項目について、肯定的な回答は81%で目標には達しなかった。</p> <p>○取組内容②については、正門での登校時のあいさつ指導や、全校集会、学年集会でのマナーやルールについての講話や指導で気持ち良いあいさつができる生徒が増加している。年度末の生徒アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、肯定的な回答の割合は、1年97%、2年89%、3年93%であった。</p> <p>学校のルールやマナーを守る取組みでは生徒会活動や各学年での指導、携帯電話やSNSの利用や薬物乱用防止についての外部講師による講話なども行った。年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年99%、2年95%、3年98%であった。</p> <p>校外活動においてもルールやマナーを意識して行動できるようにした。年度末の保護者アンケートにおける「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的な生活習慣が身につくよう指導している」の項目について、肯定的な回答は94%であった。</p> <p>○取組内容③については、宿泊行事や体育大会、文化発表会のほか、各学年での取組みに</p>

においてもお互いを尊重するよう取り組んでおり、年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年99%、2年95%、3年98%であった。また「相談できる友だちがいる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年84%、2年91%、3年90%で高い水準を維持できている。

次年度への改善点

- ・ 次年度から実施される国・数サポーターを配置して、各教科の授業において「わかる」授業のための校内研究を活性化することで、生徒の学力を向上させたい。また、いじめを絶対に許さない意識を持って、早期発見・早期対応を今後も重視して取り組みたい。
- ・ 生徒会を中心としたあいさつ運動は、今年度も年間を通して行われた。生徒が自発的に行うあいさつも増えており、学校への来客に対しても気持ちよいあいさつが行われるよう継続して取り組みたい。校外学習や職場体験など社会のルールを守る規範意識や基本的な生活習慣が身につくよう働きかける必要がある。
- ・ 学校行事や学年行事に取り組むために、学級内での仲間づくりや協働で取り組む意識の定着に向けた取り組みは今後も必要であり、グループや小集団で意見を出し合い、より良い取組みに自分たちでできるということを経験させたい。

大阪市立喜連中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。 (R6年度…1年33%、2年44%、3年は39%) 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。(R6年度…1年45%、2年51%、3年55%) 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。 (R6年度…1年96%、2年93%、3年90%) 年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合85%以上を維持する。(R6年度…1年88%、2年91%、3年95%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びコーディネーター事業と学校元気アップ事業を効率的に活用し、自学自習の場を確保する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後や定期テスト前、長期休業期間に学習機会の場を設け、学習に参加する生徒の数を前年度より増加させる。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業をすることを推進する。 基礎基本の定着を図るため、効果的な授業形態を確立する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の生徒アンケートにおける「先生はチームティーチングの授業など、教え方を工夫してくれる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。(R6年度…1年87%、2年85%、3年86%) 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの能力や努力を適正かつ公平に評価している」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R6年度…1年87%、2年85%、3年86%) 	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や部活動において基礎体力の向上を目指す運動を推進する。 	

- ・熱中症等予防講習会等を開き、体調管理を自分で行えるようになるよう推進する。
- ・新型コロナウイルス感染症を教訓とし、うがい、手洗い等の励行を推進する。

指標

- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60% 以上にする。(R6 年度…1 年 41%、2 年 51%、3 年 55%)
- ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保や事故防止に努めている」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。(R6 年度…90%)
- ・「食育つうしん」「ほけんだより」を毎月 1 回発行し、健康に対する関心を高める。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 取組内容①については、学びコーディネーター事業と学校元気アップ事業を活用し、放課後の自習教室の取組みを毎月定期的実施し、1 月時点での参加人数は 768 名となった。大学生の学びサポーターも放課後学習会に参加することで生徒が参加しやすい雰囲気を作っている。
- 取組内容②では、各教科でペアワークやグループワーク、一人一台端末の活用など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を行うことを校内研究授業の課題として設定した。年度末の生徒アンケートにおける「先生はティームティーチングの授業など、教え方を工夫してくれる」の項目について肯定的に回答した割合は、1 年 96%、2 年 79%、3 年 91%で 1、3 年生は目標値を上回った。また保護者アンケートにおける「学校は、子どもの能力や努力を適正かつ公平に評価している」の項目について肯定的に回答した割合は 92%で目標値を上回った。
- 取組内容③は、体育の授業や部活動の開始時に基礎体力向上のための運動を実施した。年度末の生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は、1 年 59%、2 年 48%、3 年 46%で昨年度並みであった。
感染症拡大防止のため啓発活動や手洗いやうがいの励行を継続して行っている。年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保や事故防止に努めている」の項目について肯定的な回答の割合は、89%を維持し、「食育つうしん」「ほけんだより」も毎月 1 回発行できている。

次年度への改善点

- ・学びサポーターも活用して、生徒が質問しやすい雰囲気づくりに努めているが、学びサポーターが大学生で自らの学業の関係で安定した参加が見込めず人材の確保が難しい。生徒アンケートで「学校元気アップ自主学習会」に参加したいと思っている生徒は全体で 30%にとどまっており、学習事項の定着のためにも自主学習できる場所は継続して確保しつつ、学習に対して積極的に取り組めるような授業研究も行う必要がある。
- ・全教員が必ず年 1 回は行う研究授業において、一人一台端末等を活用し生徒が主体的に取り組む授業について計画するように声掛けを行ったが、十分に行うことが難しかった。今後も相互参観を継続しながら、新しい指導方法の発見や課題解決を見出して生徒の学力向上につなげたい。
- ・体育の授業や体育大会などの体育的行事を通じて、運動やスポーツに積極的に取り組む生徒は高い割合であるが、運動能力や運動習慣は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において優れているとまでは至っていない。運動やスポーツへの興味を持続けることで生涯スポーツとして健康・安全面での意識向上に努めたい。感染症、食の安全性など健康の重要性についても意識させたい。

大阪市立喜連中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・学習者用端末を活用した学習、生徒アンケート等を実施する。 ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末など ICT 機器を使用した授業など、時代のニーズに応じたテーマで設定された校内授業を行う。 <p>指標・学習者用端末など ICT 機器を使用した研究授業を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末など ICT 機器を活用した教育推進のための環境を整備し、昨年度以上に活用する。 <p>指標・デジタル教材を活用した朝学習、学習者用端末を活用した生徒アンケート等を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有給休暇の取得や長時間勤務の抑制など、教職員の働き方改革を具体的に進める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>◎取組内容①については、ICT 機器を活用した授業が各教科で実施されており、一人一台端末を活用した授業も増え、授業配信も不登校生対応を中心に恒常的に実施されている。授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、1月集計時点で年間授業日の55%を超えており目標値を達成している。</p> <p>○取組内容②については、各学年の学習課題や終学活での連絡、学期ごとのいじめアンケートや被害調査、年度末の生徒アンケートなど、一人一台端末を活用することで結果集計の負担軽減をはかっている。</p> <p>○取組内容③については、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は88%で目標を達成している。夏休みなど 長期休業期間にテレワークを活用したり、授業時数を標準時数を大幅に上回ることはないように月中行事を調整するなど、教職員の働き方改革への意</p>

識は高まっている。

次年度への改善点

- ・実際の写真や動画、図表も提示できるため授業用PCで作成した教材をプロジェクターで投影し、生徒に興味・関心を持たせる授業は各教科で取り組んでいる。今年度は、一人一台端末を使って調べ学習を実施し、個別学習やその記録に利用した。不登校生に対する個別学習の活用をはじめ、今後もグループでの学習や個別学習での活用方法などの研究を進めていく。
- ・生徒のSOSをいち早くとらえるツールとして相談機能や心の天気の入力についての意識向上を図った。生徒の意識調査としての生徒アンケートの集約を容易にするためにも、一人一台端末を活用しているが、そのスキルを多くの教員が身につけて、様々な場面で現状把握に努めていく。
- ・教員の時間外勤務時間の状況については減少傾向にあり、17か月連続で前年度の数値を下回っている。教職員の意識は向上している。しかし、休日の部活指導等による、一部教員の超過勤務は依然としてみられる。超過勤務による体調不良で年度内の欠員を防ぐためにも教職員の働き方についても引き続き注視していく必要がある。

大阪市立喜連中

学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

教科・領域 「 国語科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について「よくあてはまる」「大体あてはまる」の割合を85%以上にする。	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学習習慣の確立	B
指標 授業の規律を整えるとともに、宿題・授業ノートの各クラスの提出率を85%以上にする	
取組内容②【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 視覚的効果を高めた授業づくり	B
指標 ICTを活用した授業を少なくとも一回ずつ実施する。	
取組内容③【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 言語活動の充実	A
指標 年間で2回以上、グループワーク、スピーチ、聞き取りテストのいずれかを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。また、授業の中で論述形式の問題に取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 全学年で目標達成することができたが、今後も継続的な指導が必要である。 ② 全学年で ICT を活用した授業を実施できたが、生徒による端末活用については取り組みがやや不足していたため、今後の課題である。 ③ 全学年で1学期に2回以上言語活動、論述形式の問題に取り組んだ。 言語活動・論述形式の問題については、苦手意識をもつ生徒も多く、今後も継続的に実践していきたい。	
次年度への改善点	
①については、目標を達成することができたが、学習内容の定着に向けて、引き続き取り組む必要がある。 また、②については、生徒自身が端末を活用し、より主体的に学習を進めていく取り組みをさらに増やしていくことが次年度の課題と考える。	

教科・領域 「 社会科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる」と「大体あてはまる」の割合を85%以上にする。	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学習習慣の確立	A
指標 忘れ物や宿題のチェックを毎時間行う。課題の提出率85%以上をめざす。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎的事項の定着	B
指標 宿題や小テストを通じて反復学習につとめ、定期テストや小テストでの達成率70%以上をめざす。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 自ら考え判断する力の育成	A
指標 調べ学習形式の課題を出し、様々な事象を多面的・多角的にとらえ、思考・判断する力を育成する。 また、定期テストや小テストにおいて、論述形式の問題を出題する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 生徒の意識が高まり、目標の数値を上回ることができた。 ② 授業での反復はできているが、自己学習が不足しているようで、伸び悩んでしまった。 ③ 文章能力の向上が見られた。	
次年度への改善点	
①、③については一定の向上がみられているが、②に関しては課題が残る結果となった。次年度は②の向上も図れるよう努めたい。	

教科・領域 「 数学科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 授業の規律をしっかりと守らせ、提出物を期日通りに提出できる生徒を増やす。 指標 課題の提出率80%以上を目指す。	B
取組内容②【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 定期テストなどを基に生徒の学習達成状況を把握・確認させ、基礎学力の充実に活かさせる。 指標 年2回の生徒アンケートの2人が担当している授業についての【学習はわかる】の項目で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。	A
取組内容③【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学習した事柄を基にして、数や図形、関数の性質を見つけ出す力の育成に努めさせる。 指標 数や図形、関数の性質を見つけだす手がかりとしてICT機器やプロジェクターを利用する	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
年度目標…生徒アンケート【授業がわかりやすい】の割合：76.3%（目標未達） 取組内容①…課題の提出率は全学年で目標達成 提出率はクリアしたが、理解度や取り組み姿勢の差に課題がある。 取組内容②…結果は83.3%で目標達成 次年度以降も改善を加え、可能な限り個別の指導で学力向上を目指す。 取組内容③…授業や課題配信で活用 効率化は進んだが、生徒の主体的な活用が不十分。双方向の活用を増やす必要がある。
次年度への改善点
本年度は授業の理解度の点において、目標の85%に対し76%に留まり、約10%の乖離がみられる点が大きな課題である。 次年度は本年度で満足度の高かったTTでの指導のノウハウを活かし、個々に応じた指導や多角的な説明方法で目標達成に向け、反省と改善を粘り強く行う。

教科・領域 「 理科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組	B
指標 課題の提出率80%以上を目指す。	
取組内容②【施策番号 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 知識の習得だけでなく自然現象を科学的に思考し、表現できるようになる	B
指標 1単元で1回以上、「実験・観察」または「それを補う授業」を行う。	
取組内容③【施策番号 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 定期テスト、小テストや副教材などにより、基礎学力の定着を図る。	B
指標 単元の内容を総括する単元テストを、各単元に1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 3学年ともに、おおむね目標に達することができた。次年度も引き続きノート、課題の提出を促し、100%に向けてやっていきたい。
② 1単元で1回以上、「実験・観察」または「それを補う授業」を実施することができた。第2理科室の運用も開始し、さらに充実した取り組み方法を模索していきたい。
③ 単元の内容を総括する単元テストを、各単元に1回以上実施することができた。さらに演習の時間を増やし、問題を解く機会を増やしていきたい。
次年度への改善点
課題の提出については、今年度の目標は達成することができたが、提出率100%に向けて日ごろから出てない生徒に関しては声掛けをしていきたい。また、学習者端末を使用した授業づくりに取り組んでいきたい。 単元テストを知識理解の定着により一層役立つように指導していきたい。

教科・領域 「 音楽科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
令和6年度末の生徒アンケートにおける「授業は分かりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を85%以上とする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号（4）誰一人取り残さない学力の向上】 学習に取り組む意欲の向上 指標 毎時間始業時に忘れ物チェックを行い、忘れ物なし率90%以上を目指す。	B
取組内容②【施策番号（4）誰一人取り残さない学力の向上】 音楽的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情を育てる 指標 表現活動に対して意欲的に工夫しようとする生徒や、鑑賞活動に対してより深く楽曲を理解し、豊かな感性を持って鑑賞する生徒を育てるため、プリントの作成を中心に指導し、その完成度を80%以上とする。	B
取組内容③【施策番号（4）誰一人取り残さない学力の向上】 様々な音楽の良さを味わい、鑑賞の能力を高める 指標 授業においてICT、プロジェクター機器の活用を50%以上にすることで、音楽文化についての理解を深めるなど効果的に活用し、豊かな情操を養う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①…どの学年においても忘れ物は減少傾向にあるが、同じ生徒がずっと忘れ物をすることが多い 取組内容②…プリント学習には取り組んでいるが、意欲的に取り組むことが難しく、中には提出することが難しい生徒もいた。 取組内容③…毎回の授業でPowerPoint、デジタル教科書等を効果的に活用できた。	
次年度への改善点	
一人一台端末のよりよい活用方法について引き続き模索し、活用していきたい。忘れ物に関して、同じ生徒が忘れ物をしていることが多いことから、声掛けをはじめ担任とも協力しながら改善していきたい。音楽のよさや美しさを味わいながら音楽表現や鑑賞活動に取り組むことができる生徒を育てていくため、授業の方法や問いかけの仕方などより音楽に親しみやすくなるような工夫を考えたい。	

教科・領域 「 美術科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
授業アンケートにおける「興味・関心・意欲の向上」について「そう思う」と「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 指標 毎時間、持ち物の確認を行い、持ち物準備率90%以上達成を目指す 導入の部分で授業規律についてプリント等を使って説明する。	B
取組内容②【施策番号2 道徳心・社会性の育成】 指標 アイデアスケッチなどワークシート提出率80%以上達成を目指す。 作品のコンセプトやアイデアスケッチの作り方を具体的に説明する。 プロジェクターを活用し、視覚に訴えたわかりやすい授業を展開する。	B
取組内容③【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 指標 全学年テストの平均点50点以上達成を目指す。 著名な作家の芸術作品を多く鑑賞する。テスト対策プリントを配布し学習に意欲をもたせる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①…1年の忘れものが多い。2・3年は比較的持ち物の準備が出来ている。 取組内容②…学期終わりに未提出の状況リストを作成し各クラスに知らせているが、提出率80パーセントには至っていない。 取組内容③…1学期はテストの平均点50点近く達成することができた。今後もテスト対策プリントを活用した授業を展開する予定。	
次年度への改善点	
準備物について前もって連絡し見通しを持たせる。未提出の状況リストと合わせて声掛けを行い提出率の向上を目指す。制作過程を充実させる。アイデアシート、スケッチなどの時間を増やし、作品の完成度を上げる。分かりやすい授業とともに主体的に考える授業を展開する。評価の見直しを行う。美術展への出展を増やす。	

教科・領域 「 保健体育科 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を大阪府平均点以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号7 健康や体力を保持増進する力の育成】 〈基礎体力を向上させる〉 年度当初、男女別や共習での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識を向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。</p> <p>指標 令和7年度に校内で実施をする体力テストにおいて、大阪府の平均値より1つでも上回れるようにする。</p>	B
<p>取組内容②【施策番号7 健康や体力を保持増進する力の育成】 〈運動技能を向上させる〉 教科書やワークシートで知識の理解を深め、一人一台端末を用いて、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。</p> <p>指標 各種目に応じた目標や記録の平均を明確に伝え、自己の目標・記録を向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策番号7 健康や体力を保持増進する力の育成】 〈運動に親しむ習慣を育てる〉 各学年に応じた学習内容で運動に興味を持たせる。</p> <p>指標 運動習慣調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問において「好き」「やや好き」と答える生徒の割合が男女ともに75%以上を目指す。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取り組み内容①…男子が4項目、女子が6項目で大阪市の平均値を上回った。 取り組み内容②…実技においてもICTを活用し、自分の動きを撮影して、課題や改善点を発見することで、粘り強く取り組む姿が見られるようになった。 取り組み内容③…「好き」「やや好き」と答える生徒が、男子は82%、女子が62%であった。</p>
次年度への改善点
<p>体力の合計点は大阪市の平均値と比べ、男子が0.65ポイント、下回り、女子が0.22ポイント上回っているため、次年度は男女共に上回るよう引き続き基礎体力向上のためのトレーニングを継続・強化していく。年度当初の集団行動や体育大会の練習で授業の規律の確立に努めつつ、授業において個に応じた指導や興味・関心が高まるような工夫を取り入れていきたい。</p>

教科・領域 「 技術家庭科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる」と「大体あてはまる」の割合を85%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 指標 毎回の授業の最低限の課題をきちんと書けているノートなどの提出率を出し、全学年とも80%以上にする。	B
取組内容②【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 指標 実習を通して、自ら考える力と生きる力を身につけさせる。ICT活用を取り入れた授業を展開することで、学習内容に興味をもたせ、考える力の育成を図る。ワークシートの記述内容で評価していく。	B
取組内容③【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 指標 実習教材を精選し、ものづくりに興味をもたせる。実習後にアンケートを実施し『実習が楽しかった』『またものづくりをしたいと思う』という項目で、ABCDE評価のB以上で80%を目指し取り組む。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①：達成できている。しかし、1年生において実習道具の忘れ物が目立っている状況であるため、継続的に指導していく。 取組内容②：PowerPoint提示のほか、1台端末を活用し、作品制作など行った。 取組内容③：授業の様子から、意欲的に実習に取り組んでいる様子がみられる。	
次年度への改善点	
授業ノートの提出率は達成できているが、長期休みの課題など家での取り組みになると忘れ物が増え、提出率も下がる傾向にあるため、次年度の課題として引き続き指導していく。 実習後にアンケートを実施し『実習が楽しかった』『またものづくりをしたいと思う』という項目で、ABCDE評価のB以上で80%を達成した。今後もICTの活用など引き続き行い、わかりやすく興味関心の持ちやすい授業を実施していく。	

教科・領域 「 英語科 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について「よくあてはまる」「大体あてはまる」の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み 】 基礎的な学力の定着 指標 定期的に課題を出して、家庭学習を促す。授業で单元ごとに確認プリントや小テスト、リスニング問題を行うことで基礎学力の定着に努める。	B
取組内容②【 施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み 】 授業に意欲的に取り組み、授業準備や課題提出をきちんと行うなど、基礎的な学習習慣を有する生徒を増やす。 指標 忘れ物や提出のチェックを行い、課題の提出率85%以上を目指す。	B
取組内容③【 施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み 】 C-NET とともに基礎的、実践的なコミュニケーション活動を行う。 指標 C-NET と協力し ICT を効果的に活用し、单元ごとにコミュニケーション活動を行うことで4技能（読む・書く・聞く・話す）を向上させ、基礎的、実践的コミュニケーション能力の素地を養う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①②に関して、生徒が課題に取り組み、提出するよう指導し、学習習慣の定着に努めた。取組内容③に関しては、ICT の活用において、学習者用デジタル教科書を活用させ、授業の予習、復習等に活用することができた。また、共同学習において、学習者用端末で発表原稿を作成し、発表するなどの活動を行うことができた。また C-NET の先生と協力し、コミュニケーション活動を行い、その活動のフィードバックをし、振り返り活動も行った。	
最終反省へ向けての改善点	
家庭学習を促す課題の出題や小テストの継続的な実施により、基礎学力の定着が進み、生徒の学習習慣も向上した。特に課題提出率は大幅に改善し、多くの生徒が計画的に取り組む姿勢を身につけた。一方で、内容の理解度をさらに深めるために、個別のフィードバックを充実させることが今後の課題である。ICT を活用した活動ではスピーキングの機会が増え、積極的な発話が見られた。GTEC の結果を踏まえ、リスニングやスピーキングのさらなる向上を目指し、実践的な学びを強化していく。今後も学習の定着を図り、生徒が自信をもって英語を使えるように指導を続ける。	

教科・領域 「 道徳科 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○道徳の授業、人権教育の授業及び活動を通じて、自己と他者の違いを認識したり尊重したりして、互いに認め合う心を育成する。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 特別の教科『道徳』において、各学年の指針と計画を立て、学校全体で道徳の授業の発展に努める。 指標 各学年で、計画的に道徳の授業に取り組み、教師全体で道徳の授業の発展に努める。道徳の授業の取り組みや実践について、道徳人権委員会全体で意見を出し合い、今後の授業に生かせるようにする。	A
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(平和学習の実践) 2年生で平和学習の実践として戦争の歴史などを振り返り、平和学習の取り組みを実施し、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ。 指標 戦争や平和について講義を行う、映像を見る、また道徳の授業の中で、読み物教材などと関連づけて平和学習を取り入れていく。	A
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(障がい者への理解) 1年生で障がいのある人々のことを理解し、共に生きる社会の実現について考える。 指標 1年生で障がい者に対する学習を行い、また道徳の授業などと関連付けたり、視聴覚資料を観たりすることで障がい者への理解を深めていく。	B
取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(他文化についての理解) 3年生で外国籍の人々に対しての知識や理解を深め、偏見や人種差別を許さない教育の推進に努める。 指標 人権学習の中で、映像を観たり、講義を行うことで他文化についての理解を深め、自分と他者との違いを知ったり、自国と他国との文化の違いを知るよう努める。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 計画通りに実施され、各学年の取り組みが着実に進められた。各学年で計画を立て、教師全体で協力しながら道徳授業を実施した。道徳人権委員会で意見交換を行い、継続的な改善が図られた。 ② 1・2年生は戦争の歴史を振り返る平和学習を今後実施する予定。3年生は万博学習においてSDGsの資料を活用し障がい者理解を深め、多文化理解もSDGsと関連付けて国際意識を向上できた。 ③ 映像資料の活用により、生徒の理解が向上した。 ④ 万博学習においてSDGs(貧困・教育の平等・ジェンダー問題)に関連する学習を実施し、社会的課題への意識を高めた。

次年度への改善点
年度目標は順調に達成されつつあり、各学年の取り組みは計画通り実施されている。映像資料やSDGsの学習を活用することで、道徳心・社会性の育成において、大きな成果が見られた。今後もさらなる質の向上を目指し、道徳人権委員会の協議を深めながら取り組みを継続していく。

教科・領域 「 1年 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
全教育活動を通じて子どもたちの主体性を高め、リーダーを育成する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号1】 安全で安心できる学校、教育環境の実現	B
指標 生徒アンケートの「学校へ行くのが、楽しい。」の「当てはまる」を50%以上にする。	
取組内容②【施策番号2】 道徳心・社会性の育成	B
指標 生活アンケート「生徒会や委員会活動・学級の係活動に積極的に参加している」の「当てはまる」を70%以上にする	
取組内容③【施策番号6】 国際社会において生き抜く力の育成	B
指標 「文化発表会や体育大会、校外学習などの行事は楽しみである。」肯定的回答割合70%以上を目指す。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
アンケートの「学校が楽しい」と回答した生徒は86%、「生徒会や委員会活動・学級の係活動に積極的に参加している」と回答した生徒は87%、「文化祭や体育大会、宿泊行事は楽しかった」と回答した生徒は94%であった。 取組内容①…案件について学年集会等を活用し注意喚起、指導、情報共有を行い生徒が安心して通える学校環境を整えてきた。 取組内容②…学級代表の委員会活動では綿密な打ち合わせを行い、各行事の挨拶や司会を担当した。 取組内容③…一泊移住では生徒を中心に活動できた場面が少なかったが、文化発表会や体育大会では学級代表やパートリーダー、体育委員を中心に取り組みを行った。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会等は早めに登校し、学級代表を中心に自分たちだけで整列完了できるようになった。チャイム前に着席する習慣もついてきたので、次年度も継続して指導を行っていく。 ・不登校生徒が多いため、生徒のケアを含め保護者や関係機関との連携を学年全体で取り組む。 	

教科・領域 「 2年 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
全教育活動を通じて子どもたちの主体性を高めリーダーを育成する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号1】 安全で安心できる学校、教育環境の実現 指標 「学校へ行くのが、楽しい。」肯定的回答割合60%以上目指す。	B
取組内容②【施策番号2】 道徳心・社会性の育成 指標 「生徒会や委員会活動・学級の係活動に積極的に参加している。」 肯定的回答割合60%以上目指す。	B
取組内容③【施策番号6】 国際社会において生き抜く力の育成 指標 「文化発表会や体育大会、校外学習などの行事は楽しみである。」 肯定的回答割合70%以上目指す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
アンケート結果 「学校が楽しい」と回答した生徒は88%、「生徒会や委員会活動・学級の係活動に積極的に参加している」と回答した生徒は84%、「文化発表会や体育大会、校外学習などの行事は楽しみである。」と回答した生徒は90%であった。 アンケート結果 取組内容①…案件について学年集会等を活用し注意喚起、指導、情報共有を行い生徒が安心して通える学校環境を整えた。 取組内容②…学級代表や生徒専門委員等の代表生徒が各行事の挨拶や司会を担当した。 取組内容③…各行事に生徒が主体的に取り組めるようにし、その活動を学校生活に活かすことができるように指導を行った。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒でルールを守ることのできない生徒や遅刻が多いので改善できるよう指導を継続していく。 卒業後の進路を見据えた人格の形成を目指す。 不登校生徒が多いため、生徒のケアを含め保護者や関係機関との連携を学年全体で取り組む

教科・領域 「 3年 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
全教育活動を通じて子どもたちの主体性を高めリーダーを育成する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号1】 安全で安心できる学校、教育環境の実現 指標 「学校へ行くのが、楽しい。」肯定的回答割合 55%以上目指す。	B
取組内容②【施策番号2】 道徳心・社会性の育成 指標 「生徒会や委員会活動・学級の係活動に積極的に参加している。」 肯定的回答割合 60%以上目指す。	B
取組内容③【施策番号6】 国際社会において生き抜く力の育成 指標 「文化発表会や体育大会、校外学習などの行事は楽しみである。」 肯定的回答割合 75%以上目指す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①…学年集会等を活用し注意喚起、指導、情報共有を行い生徒が安心して通える学校環境を整えている。 取組内容②…学級代表の委員会活動では綿密な打ち合わせを行い、各行事の挨拶や司会を担当している。 取組内容③…各行事に生徒が主体的に取り組めるようにし、その活動を学校生活に活かすことができるように指導を行っている。

次年度への改善点
学習環境、生活環境を整えることが安心して通える学校環境になっていくと考える。そのため集団の質・レベルを上げる取り組みをしていきたい。また不登校生徒が多かったため、生徒のケアを含め保護者や関係機関との連携を学年全体で取り組む。

教科・領域 「 道徳心・社会性の育成 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>○令和7年度末の校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>全教職員があらゆる場面で、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめを未然に防ぐように努め、早期発見、対応に協力して取り組んでいく。生徒との信頼関係の構築と維持を図るため、教育相談の機会を設け、綿密な状態把握を行う。</p> <p>指標 いじめの未然防止、早期発見、解決に全教職員で協力して取り組む。</p> <p>毎学期ごとのいじめアンケート調査を行い、学校で認知したいじめについて、解消した割合を90%以上にする。教育相談を1年に2回行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策番号2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>風紀違反の減少と規範意識の向上</p> <p>指標 風紀点検での違反者を1%以下にする。服装等の違反での指導を減少させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策番号2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>あいさつと遅刻チェック</p> <p>指標 予鈴後・本鈴遅刻者の平均をそれぞれ1.5%以下、1%以下にする。</p> <p>挨拶アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、「できている」と答えた生徒の割合を80%以上にする。</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①…全教職員があらゆる場面で、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめを未然に防ぐように努め、早期発見、対応に協力して取り組んでいる。また、いじめアンケート調査を行い、現状の情報を共有し、早期解決に至った。1学期4月と2学期8月に教育相談の機会を設け、学期の始めに被害調査を実施し、早期発見に取り組んだ。</p> <p>取組内容②…風紀点検の違反者は全体で0.4%だった。違反の内容としては名札忘れが目立っていた。</p>	

取組内容③…2 学期実施の挨拶アンケートにおいて、①「人に対して自分から元気よくあいさつができています」が約 51%②「人からあいさつされれば、元気よくあいさつを返せている」が 14%③「人からあいさつをされれば、あいさつを返せている」が 31%で、あいさつができていますの割合は合計で 97%であった。
予鈴遅刻は全体の 0.4% 本鈴遅刻は全体の 3.8%だった。

次年度への改善点

・連絡なしの遅刻者の数が昨年よりも増加傾向にあるため、家庭と連携し継続的に指導していきたい。

教科・領域 「 生徒会活動・部活動 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○生徒会・生徒専門委員会の活動を自主的・積極的に取り組む態度を養わせる。 ○部活動を自主的・積極的に取り組む態度を養わせる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 教員が生徒会の専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。 生徒会アンケートを実施する。	B
指標 学期に1回程度行い、生徒会アンケートで学校生活の充実度を調査する。	
取組内容②【施策番号2 道徳心・社会性の育成】 小中交流部活動体験の実施。部活動紹介の実施。部活動集会の実施	B
指標 部活動に入部した生徒の継続率を全学年90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①…生徒会新聞の発行や、校則順守に関する発表、スマホサミットへの参加等を行った。また、1、2学期末に生徒会アンケートを行った。 取組内容②…今年度から体験授業と同日に部活動体験を行った。また今年度の部活動継続率は全体で93%だった。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部の活動としては全校生徒の前で発表する機会をより一層増やしていき、校則の見直しについても生徒会執行部の生徒を中心に行っていきたい。 ・部活動への加入率は全体の60%で、昨年の66%よりさらに低下したが、継続率に関しては目標を上回ることができたので、引き続き生徒が継続的に活動できるよう指導していきたい。 	

教科・領域 「 学級活動 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校行事（文化発表会、体育大会、校外学習、泊行事、学年行事）に、しっかり取り組んでいる」の項目について、「よくあてはまる」と「大体あてはまる」の割合を85%以上にする。</p> <p>○個性を尊重し、活発な話し合いができる学級集団作りに努める。</p> <p>○みんなで協力して、学級運営の役割を分担し、責任を持って実行させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>個人面談、家庭訪問、学年懇談、学級懇談などを定期的実施し、家庭と連携しながらそれぞれの課題に主体的に取り組ませ、自他共に尊重できる姿勢を身につけさせる。</p> <p>指標 暴力行為の件数、暴言による指導件数を昨年度より減少させる。不注意による器物破損等の指導件数も昨年度より減少させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策番号2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>班活動や係活動を通して、集団の一員という自覚と連帯感をもたせて、規律意識を高める。</p> <p>指標 生徒会アンケートや学校評価アンケートで「学校行事に積極的に取り組んだ」の回答の水準を昨年度より上げる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①…暴力行為の指導件数は、減少傾向にある。落ち着いて授業を受けられていることと休み時間の学年教員による巡視活動や学年集会などの各学年の取り組みによるものと考えられる。</p> <p>取組内容②…2学期の生徒会アンケートでは「学校行事に積極的に取り組むことができた」という意見が昨年度は1学期が88%、2学期が94%で、今年度は1学期が1年生96%、3年生が94%で（2年生は行事がなかったため未質問）、2学期は95%だった。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為、暴言の指導件数は、減少傾向にあるが、今後も各家庭と連携しながら、それぞれの課題に主体的に取り組ませ、自他共に尊重できる姿勢を身につけさせる。また器物破損等の指導が今年度もあったので、校内での過ごし方についての指導をしていく。 ・今後も、学校行事を通して、集団の一員という責任と連帯感をもたせるなど規律意識を高める取り組みを継続していく。 	

教科・領域 「 進路指導 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号6 国際社会において生き抜く力の育成】 指標 【進路説明会】入試制度の変遷についての理解徹底 ICT機器の利用 1. 「進路の手引き」等の資料を作成し、絶えず変化する制度の中で進路選択に関する情報を適切に生徒・保護者に提供し、適正な進路を考えさせ、進路選択への取り組みを進めさせる。保護者向けの進路説明会を2回実施し、保護者への進路情報の提供に努める。 2. 時代とともに変革を遂げる入試制度の情報を周知徹底する	B
取組内容②【施策番号6 国際社会において生き抜く力の育成】 指標 【進路学習】進路指導主事の講話等で全学年を指導 1. 各学年の進路学習を計画的に進めていく。 2. 入試制度についての的確にかつ速やかに情報を周知徹底する。 3. 全学年、各学期に1時限以上実施する。 4. キャリア教育・職業講話の実施。	B
取組内容③【施策番号6 国際社会において生き抜く力の育成】 指標 【進路指導委員会の円滑な運営】 1. 進路指導委員会の円滑な運営と精選された資料の提供をする 2. 合否基準において判定確率を90%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】進路説明会を2回実施した。生徒・保護者への情報提供をし、進路選択への取り組みを進められた。 【取組内容②】3年生、2年生に向けての進路学習を実施した。進路選択を考えるきっかけとなった。 【取組内容③】進路指導委員会を4回実施した。円滑に運営できた。	
次年度への改善点	
進路に向けて、必要な情報を、生徒・保護者・先生に、適切に伝えていけるよう取り組んでいきたい。	

教科・領域 「 特別支援教育 」

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
生徒それぞれの障がいの特性や生活状況を把握し、自立と社会参加を目標とした指導や支援をしていく。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校作り】 教職員間の共通理解を深める。	B
指標 校内委員会などで教職員間の共通理解を深め、生徒一人ひとりの個性を理解し、安心して過ごせる環境を整える。	
取組内容②【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力の向上への取り組み】 一人ひとりの特性に合わせた指導や支援をする。	B
指標 各家庭や諸機関との連携をはかる。	
取組内容③【 施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 基本的な生活習慣の励行	B
指標 挨拶や時間を守るなどの生活習慣を身につける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 特別支援教育推進委員会や学年会等において情報交換を行い、生徒の状況について共通理解を行った。支援生徒が自らクールダウンに来ることから、安心できる環境を作ることができた。</p> <p>② 個々の生徒に適した教材を選び基礎的な学力の定着を目指し指導した。生徒それぞれの状態に応じての支援方法について考査し、抽出授業・授業への入り込み・休み時間等でよりよい関わり方を検討し、実施した。また、保護者と連絡帳や電話、家庭訪問を実施して連絡を密に取った。</p> <p>③ 基本的な生活習慣を身につけるため、時間を守る、挨拶をする、身だしなみを整える、整理整頓などの指導を行った。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 特別支援教育推進委員会や学年会等において、生徒の状況について情報交換を行ってきたが、データを作成して全教員がいつでも見られるようにする。</p> <p>② 不登校生徒については、保護者や本人と電話・家庭訪問を通して連絡を取り合い、登校したいと思えるような環境を作っていく。</p> <p>③ 抽出授業時に遅刻をする、挨拶の声が小さい生徒がいるので、注意を継続していく。</p>	

教科・領域 「 保健管理と指導 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○生徒が健康で安全な学校生活を過ごすことを目指す。 ○校内美化・環境整備に努める。 ○自分の健康について自己管理のできる生徒の育成に努める。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【(1) 安心安全な教育環境の実現】 校内の環境整備と美化に努める 指標 清掃用具等、物を大切にすることを育てると共に、美化委員を中心に、 整理整頓・美化意識を定着させる。また、清掃活動を通して落ち着いた環境 を作る意識を育てる。	B
取組内容②【(1) 安心安全な教育環境の実現】 安全への意識を高め、教育を進める。 指標 避難訓練を年2回実施し、緊急対応の仕方や安全・命の大切さを意識させ、 それを向上させる。また研修等を通して救命救急のスキルをあげる。	B
取組内容③【(5) 健やかな体の育成】 健全な生活習慣を身につけ、健康を維持する力をつける。 指標 検診前にどのような検診を行うのか意識させる。検診後の健康・保健指導を 通して健康面や生活意識を改善・向上させ、治癒率50%以上を目指す。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①美化委員の活動として、学期に一度の美化点検を行い、生徒の美化意識の定着に努めた。また学習環境の整備を適切に行い、生徒自身が落ちついて学習できる環境づくりを目指して委員会活動に取り組めた。 ②年2回の避難訓練（5月・11月）では、映像資料を使い、災害への啓発を行うことができた。2年生の防災教育（8月）、教員向けの救急救命講習、防犯研修も行えた。 ③ 検診前にはプリント、パワーポイント等で説明を行い、意義を意識させた。夏休みなどの長期休みに受診するよう呼びかけをしているが、まだまだ受診率が大きく上がっているわけではない。	
次年度への改善点	
次年度も安心・安全な学校を目指し、美化委員・保健委員など生徒専門委員会を中心に校内美化に努めさせたい。検診では治癒率50パーセントを超えられるように適切に指導を行っていく。	

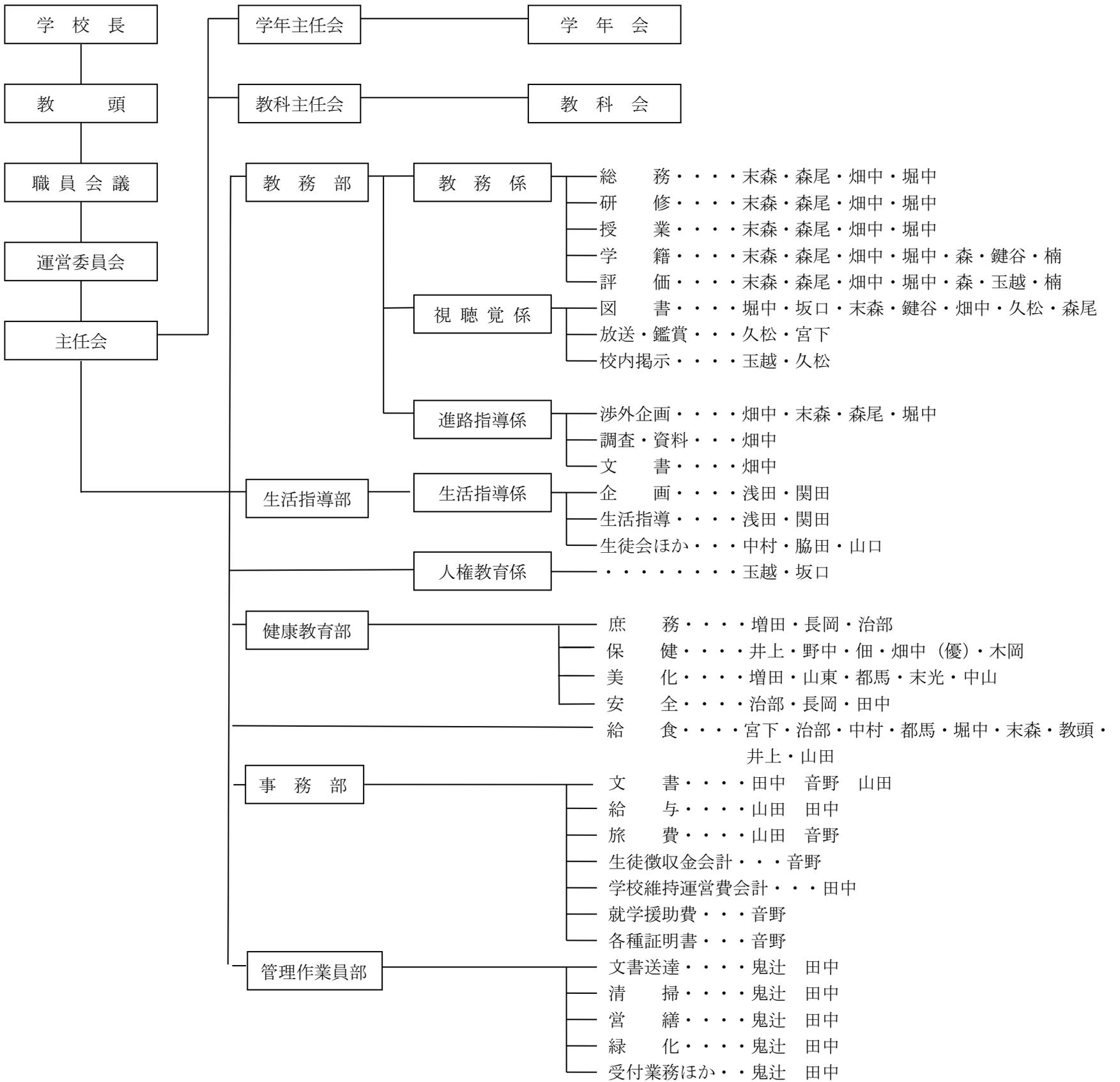
教科・領域 「 研修の重点 」

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【(4) 誰一人取り残さない学力の向上】 各教科において、共同的に学ぶ場面を取り入れた研究授業を実施し、研鑽を積み、授業力の向上に努める。	B
指標 全教員が指導案を作成して研究授業を実施する。また、授業参観を行う。	
取組内容②【(4) 誰一人取り残さない学力の向上】 生徒一人ひとりに向けた基礎学力の向上に努める。	A
指標 小テストや補習などを通して、各生徒の理解度を確認し、指導の参考とする。	
取組内容③【(4) 誰一人取り残さない学力の向上】 ICT 機器の研修及び活用に努める。	A
指標 ICT の使い方を学ぶこと、そして生徒に対して言葉以外に視覚に訴えることで、授業内容を理解させるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①概ね達成できた。 ②各教科の取り組みにより、一定の数値は出てきているが、次年度にかけては工夫が必要であると感じた。 ③朝学習においてタブレットを使った学習を行い、また各教科においてもタブレットを使った学習を行い、基礎学力の向上及び授業内容の理解に努めている。	
次年度への改善点	
一台端末は、授業で基本的に使用されており、使用率は向上していると感じる。次年度も同様の状況に導きたい。	

令和7（2025）年度 校務分掌表

大阪市立喜連中学校



○運営委員会（行事検討委員会）（※マスタープラン委員会）
 …校長 教頭 首席 各部長 進路指導主事 各学年主任 生徒指導主事 事務代表 （※管理作業員1名）

○主任会…校長 教頭 首席 生徒指導主事 教務主任 各学年主任

○教育課程検討委員会…校長 教頭 首席 教務主任 各教科主任

○進路指導委員会…校長 教頭 進路指導主事 教務主任 3年教職員 2年生学年主任 1年教職員代表（兼任可）

○性教育委員会…保健主事 養護教員 各学年3名（保健主事が兼任可）

○体育大会実行委員会…体育科（全員）事務1名 各学年3～4名（兼任可）

○文化発表会実行委員会…各学年3～4名 事務1名

○道徳・人権教育委員会…人権主担 各学年3名

○給食委員会…教頭 各学年より2名 養護教員 事務室

○ICT委員会…ICT主担 各学年より2名ずつ 生活指導部より1名

○学力向上委員会…校長 教頭 首席 教務主任 生徒指導主事 各学年主任 習熟度学習コーディネーター

